



## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年10月27日

上場会社名 株式会社MARUWA 上場取引所 東 名  
 コード番号 5344 URL <https://www.maruwa-g.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 神戸 誠  
 問合せ先責任者 (役職名) 企画室長 (氏名) 森下 由紀子 TEL 0561-51-0841  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年12月3日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (アナリスト・機関投資家向け)

百万円未満切捨

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	24,722	26.6	7,926	69.2	8,118	74.8	5,567	76.5
2021年3月期第2四半期	19,533	△4.0	4,685	12.9	4,644	11.2	3,154	10.0

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 5,621百万円 (69.6%) 2021年3月期第2四半期 3,315百万円 (42.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	451.30	—
2021年3月期第2四半期	255.80	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	84,629	71,537	84.5
2021年3月期	78,059	66,344	85.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 71,537百万円 2021年3月期 66,344百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	28.00	—	36.00	64.00
2022年3月期	—	34.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	36.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

配当予想の修正については、本日(2021年10月27日)公表いたしました「2022年3月期通期連結業績予想の上方修正および配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,200	21.1	15,900	55.1	15,900	53.9	10,500	51.4	851.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績予想の修正については、本日(2021年10月27日)公表いたしました「2022年3月期通期連結業績予想の上方修正および配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	12,372,000株	2021年3月期	12,372,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	34,270株	2021年3月期	36,327株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	12,337,130株	2021年3月期2Q	12,332,859株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(金額単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載していましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大による経済活動の制限が長期化し、感染症対策により一部で回復の動きがみられるものの、全般的な経済活動の持ち直しには依然として時間を要する状況になりました。

グローバルマーケット市場において情報通信関連では、次世代高速通信市場の拡大や情報ネットワークの増強など、通信技術の用途の広がりが進んでいます。車載関連では、各国が掲げる脱炭素に向けた取り組みにより、EVの普及が想定以上のスピードとなってきました。半導体関連では、グローバル市場で半導体不足のため、大幅な投資が行われております。弊社が目指すこれらの市場においては大きなチャンスとなっておりました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、創業から培ってきた材料技術により優れた特性の材料を開発・製造し、それらの材料技術に要素技術を融合することによる技術革新を推し進めてまいりました。さらに将来を見据えた技術開発の強化はとて重要であり引き続き力を入れるとともに、ESG、環境問題を第一にとらえ、歩留まり向上やリードタイムの短縮を目指すことも重要であると考えております。

当四半期では前期までに3年間の構造計画が終了し、高収益商品への変更も順調に進んでおり、売上高は、前年同期比26.6%増の24,722百万円となりました。利益につきましては、戦略的な高付加価値製品の増加や生産性向上などによる利益率の改善に努めた結果、営業利益は前年同期比69.2%増の7,926百万円、経常利益は前年同期比74.8%増の8,118百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比76.5%増の5,567百万円となりました。

以上の取り組みにより、売上高営業利益率は前年同期24.0%から8.1ポイント増加の32.1%となり、第2四半期連結累計期間として過去最高の結果となりました。

セグメント別の売上高と利益の状況は次のとおりです。

#### ①セラミック部品事業

当事業においては、材料技術や要素技術を活かした差別化製品が堅調に推移し、収益性の向上に向けた体質強化に力を入れてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比32.2%増の21,139百万円、セグメント利益は前年同期比70.3%増の7,957百万円となりました。

#### ②照明機器事業

当事業においては、高輝度性能や配光性能が向上した製品、高演色光源を利用した製品などに注力し、収益性の向上に向けた工程改善を積極的に進めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う公共事業案件の遅れなどがありました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比1.1%増の3,583百万円、セグメント利益は前年同期比15.9%減の352百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期における連結の総資産は84,629百万円となり、前連結会計年度末と比較して8.4%増加しました。

負債は13,091百万円となり、前連結会計年度末と比較して11.7%増加しました。

純資産は71,537百万円となり、前連結会計年度末と比較して7.8%増加しました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの差別化製品が各市場において好調に受注しております。また、従来から進めてきた改善活動による原価低減効果などにより、各利益に関しましても予想を上回る見込みとなりました。これらにより、2021年4月27日に公表しました2022年3月期の通期連結業績予想を修正いたしました。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	34,088	37,699
受取手形及び売掛金	9,834	11,955
電子記録債権	1,267	1,252
商品及び製品	1,641	1,699
仕掛品	2,277	2,512
原材料及び貯蔵品	2,463	3,181
その他	2,148	1,303
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	53,714	59,596
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,012	17,478
減価償却累計額	△6,967	△7,265
建物及び構築物(純額)	10,044	10,212
機械装置及び運搬具	22,354	23,718
減価償却累計額	△17,149	△18,134
機械装置及び運搬具(純額)	5,204	5,583
土地	4,544	4,546
建設仮勘定	1,889	1,741
その他	3,887	4,067
減価償却累計額	△3,238	△3,394
その他(純額)	648	673
有形固定資産合計	22,332	22,757
無形固定資産		
その他	260	275
無形固定資産合計	260	275
投資その他の資産	1,752	2,000
固定資産合計	24,345	25,033
資産合計	78,059	84,629

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,404	3,282
電子記録債務	1,931	1,747
短期借入金	100	100
1年内返済予定の長期借入金	266	266
未払法人税等	1,986	2,557
賞与引当金	699	782
役員賞与引当金	49	5
その他	2,172	2,388
流動負債合計	9,612	11,130
固定負債		
長期借入金	1,599	1,466
繰延税金負債	160	158
その他	342	336
固定負債合計	2,103	1,961
負債合計	11,715	13,091
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,646	8,646
資本剰余金	12,005	12,017
利益剰余金	46,796	51,911
自己株式	△217	△205
株主資本合計	67,231	72,370
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	119	139
為替換算調整勘定	△1,006	△972
その他の包括利益累計額合計	△886	△832
純資産合計	66,344	71,537
負債純資産合計	78,059	84,629

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	19,533	24,722
売上原価	10,942	12,331
売上総利益	8,590	12,391
販売費及び一般管理費	3,905	4,464
営業利益	4,685	7,926
営業外収益		
受取利息	26	31
受取賃貸料	44	49
為替差益	—	112
その他	33	37
営業外収益合計	105	231
営業外費用		
支払利息	1	4
為替差損	101	—
投資不動産賃貸費用	22	22
その他	21	12
営業外費用合計	147	39
経常利益	4,644	8,118
特別利益		
固定資産売却益	1	0
子会社清算益	11	—
補助金収入	—	89
特別利益合計	13	90
特別損失		
固定資産除売却損	20	3
固定資産圧縮損	—	75
感染症関連損失	67	41
特別損失合計	88	119
税金等調整前四半期純利益	4,568	8,088
法人税、住民税及び事業税	1,269	2,576
法人税等調整額	144	△55
法人税等合計	1,414	2,520
四半期純利益	3,154	5,567
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,154	5,567

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	3,154	5,567
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	60	20
為替換算調整勘定	100	33
その他の包括利益合計	160	54
四半期包括利益	3,315	5,621
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,315	5,621



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,568	8,088
減価償却費	1,003	1,235
のれん償却額	26	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4	△4
子会社清算損益(△は益)	△11	—
固定資産除売却損益(△は益)	19	3
固定資産圧縮損	—	75
受取利息及び受取配当金	△29	△33
支払利息	1	4
補助金収入	—	△89
為替差損益(△は益)	0	△1
売上債権の増減額(△は増加)	1,093	△2,101
棚卸資産の増減額(△は増加)	444	△1,007
仕入債務の増減額(△は減少)	204	356
その他	△497	849
小計	6,828	7,374
利息及び配当金の受取額	29	33
利息の支払額	△1	△4
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△536	△1,904
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,319	5,498
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(△は増加)	—	2
有形固定資産の取得による支出	△3,401	△1,221
有形固定資産の売却による収入	3	0
投資有価証券の取得による支出	△1	△151
子会社の清算による収入	34	—
無形固定資産の取得による支出	△8	△36
補助金の受取額	—	89
その他	△18	△23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,391	△1,340
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	800	—
長期借入金の返済による支出	—	△133
自己株式の取得による支出	△1	△0
配当金の支払額	△320	△444
財務活動によるキャッシュ・フロー	478	△577
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	25
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,454	3,605
現金及び現金同等物の期首残高	29,114	33,888
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,568	37,493

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、照明機器事業における一部の取引について、出荷時に収益を認識する方法から顧客との契約における履行義務が充足された時点で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

なお、収益認識会計基準等の適用による、当第2四半期連結累計期間の損益及び期首利益剰余金に与える影響は軽微であります。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	セラミック部品 事業	照明機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,990	3,543	19,533	—	19,533
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	37	38	△38	—
計	15,991	3,580	19,571	△38	19,533
セグメント利益	4,671	419	5,091	△405	4,685

(注) 1. セグメント利益の調整額△405百万円には、セグメント間取引消去△28百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△377百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	セラミック部品 事業	照明機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,139	3,583	24,722	—	24,722
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	12	15	△15	—
計	21,141	3,596	24,737	△15	24,722
セグメント利益	7,957	352	8,310	△383	7,926

(注) 1. セグメント利益の調整額△383百万円には、セグメント間取引消去6百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△390百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。